

登録簿(鳥獣保護管理調査コーディネーター)

登録番号	R09003
(ふりがな) 氏名	ひぐち たかし 樋口 高志
連絡先	名称
	役職
専門分野	鳥獣保護管理調査コーディネーター
専門とする鳥獣	<input checked="" type="checkbox"/> イノシシ <input checked="" type="checkbox"/> ニホンジカ <input type="checkbox"/> ツキノワグマ <input type="checkbox"/> ヒグマ <input type="checkbox"/> サル <input type="checkbox"/> カモシカ <input type="checkbox"/> カワウ <input checked="" type="checkbox"/> 外来種 (キョン、クリハラリス、タイワンジカ) <input type="checkbox"/> その他 ()
主な活動地域	<input type="checkbox"/> 北海道 <input checked="" type="checkbox"/> 東北 <input checked="" type="checkbox"/> 関東 <input checked="" type="checkbox"/> 北陸 <input checked="" type="checkbox"/> 中部 <input checked="" type="checkbox"/> 近畿 <input checked="" type="checkbox"/> 中国 <input checked="" type="checkbox"/> 四国 <input checked="" type="checkbox"/> 九州 <input type="checkbox"/> 沖縄
鳥獣保護管理活動の経歴	<p>平成15年から、奈良家の大台ヶ原におけるニホンジカの特定期間(第2期～第4期)および自然再生推進計画(第1期～第3期)に係る調査および解析と計画の策定に携わる。平成26年から、奈良公園を中心に生息する天然記念物「奈良のシカ」の保護・管理に関する調査および解析と計画の策定に携わる。</p>

○登録者の住所、電話番号、FAX番号、E-mailに関わる情報については、利用者が利用申請書を運営事務局へ提出した場合に、当該利用者に関し情報の提供をします。

鳥獣保護管理調査コーディネーター

樋口 高志

株式会社環境総合テクノス環境部

対象鳥獣
二ホンジカ

活動地域
奈良県

事業内容

環境省近畿地方環境事務所

大台ヶ原自然再生事業植生モニタリング等業務

事業の背景

吉野熊野国立公園に属する大台ヶ原では、二ホンジカの採食による影響が顕著となっており、森林の減少や下層植生の衰退が生じている。大台ヶ原において健全な天然更新が阻害されている森林生態系の回復と生物多様性の保全を目指し、環境省では2005年から自然再生事業を進めている。現在の取組は、大台ヶ原自然再生推進計画2014に基づき、シカの個体数管理や森林生態系の保全と回復を目指した防鹿柵の設置等が進められている。

依頼を受けて実施した内容

大台ヶ原自然再生推進計画の取組のうち、自生稚樹の保護や下層植生等の保全のための防鹿柵の設置方針や設置効果を把握するためのモニタリング手法についての検討を行うとともに、二ホンジカの個体数調整の年度ごとの評価や定期的に行われる自然再生推進計画、第二種特定鳥獣管理計画の点検・見直しに必要な植生や二ホンジカの個体数密度等のデータを収集している。

二ホンジカを排除し、森林生態系の回復と保全を目指した防鹿柵内については、林床の明るい湿地環境では柵の設置後数年で下層植生が回復するなど設置効果がみられた。下層植生の回復に伴う動物相の回復状況を把握するため、設置後10年が経過した防鹿柵内外（写真1、2）において下層植生の開花量と訪花昆虫相を比較したところ、防鹿柵内では、草本植物の開花量が多くなり、それに伴い、訪花昆虫の数だけでなく種数も多くなった。これは、防鹿柵の設置により下層植生が回復したことが、訪花昆虫の餌資源の確保に貢献しているものと考えられた。



写真1：防鹿柵外の林床
（二ホンジカの不嗜好性植物のバイケイソウが目立っている）



写真2：設置後10年が経過した防鹿柵内の林床

防鹿柵設置による緊急的な森林生態系の保全により、下層植生やそれに伴う生物相の回復が図られることが明らかになった。しかしながら、大台ヶ原では、二ホンジカの個体数調整により一旦は5頭/km²以下の低密度を達成したが、下層植生は回復していない。今後は、防鹿柵外における森林生態系の回復が課題となることから、二ホンジカの低密度状態を維持していくとともに、植生回復が可能となる二ホンジカの個体数密度を把握することが必要となる。